

(社) 日本原子力学会 標準委員会 システム安全専門部会  
第 14 回 PLM 分科会 (P14SC) 議事録

1. 日 時 2010 年 5 月 12 日 (水) 13:30~17:00
2. 場 所 原子力安全基盤機構 本館 9 階 9G 会議室
3. 出席者 (敬称略)  
(出席委員) 鈴木 (主査), 文能 (幹事), 楠, 矢野, 下家, 新立 (田中代理), 田村, 皆川, 萬年, 西山, 利沢, 今村, 三山, 成瀬, 渡辺, 松本 (松浦代理)  
(16 名)  
(欠席委員) 新井, 大木, 橘高, 米山 (4 名)  
(常時参加者) 中川  
(傍聴者) 平野, 植田, 池永, 水崎  
(標準委員会) 宮野  
(事務局) 岡村
4. 配付資料  
P14SC-14-1 第13回PLM分科会議事録 (案)  
P14SC-14-2 人事について  
P14SC-14-3 PLM実施基準201X年追補版の公衆審査結果  
P14SC-14-4-1 PLM実施基準2008年英訳版の作成 (案)  
P14SC-14-4-2 PLM実施基準2008年英訳版のレビューの分担 (案)  
P14SC-14-5 経年劣化メカニズムまとめ表の管理方法 (案)  
P14SC-14-6-1 経年劣化メカニズムまとめ表の改定 (案)  
P14SC-14-6-2 経年劣化メカニズムまとめ表改定案 (抜粋)  
P14SC-14-6-3 経年劣化メカニズムまとめ表記載要領  
P14SC-14-7 耐震安全性評価の充実の検討について (案)  
P14SC-14-8 配管減肉耐震の規格化の検討状況  
P14SC-14-9 システム安全専門部会等への状況報告 (案)  
P14SC-14-10 PLM分科会活動スケジュール (案)  
  
P14SC-14-参考1 実用発電用原子炉施設における高経年化対策実施ガイドライン改定版  
P14SC-14-参考2 減肉配管の耐震安全性評価に関する説明資料
5. 議事  
会議に先立ち, 出席委員は代理を含めて 15 名で, 定足数を満足している旨確認した。  
(1) 人事 (P14SC-14-2)

①委員の退任

事務局より、佐野委員及び大崎委員の退任が報告された。

②新委員の選任

事務局より、新委員として中部電力（株）の成瀬昌樹氏が推薦されている旨説明し、審議の結果新委員として選任された。

③常時参加者の登録解除

事務局より、（独）原子力安全基盤機構の菅野眞紀氏の常時参加登録解除が報告された。

（2）前回議事録確認

文能幹事より、第13回 PLM 分科会議事録（案）（P14SC-14-1）が紹介され、承認された。

（3）PLM 実施基準 201X 年追補版の公衆審査結果（P14SC-14-3）

PLM 実施基準 201X 年追補版の公衆審査で意見がなかったことを確認した。

（4）PLM 実施基準 2008 年版の英訳

文能幹事より、P14SC-14-4-1 及び P14SC-14-4-2 に基づいて、PLM 実施基準 2008 年版の英訳版作成方針とレビュー分担（案）について説明がされ、レビューに取り掛かることが了承された。主なコメントは以下のとおり。

- ・英訳の目的（理由）であるが、英訳版作成は標準委員会で承認済み。（英訳は、システム安全専門部会から標準委員会に報告され実施するもの。）
- ・電気協会における規格の英訳検討で、国外で訴訟を受けるなどのリスクを懸念していることがあるので、これらの検討結果を確認しておく必要がある。したがって、作成方針の「国外の技術者にも広く利用されるよう」の記載は再検討する。
- ・英訳版は別売の予定。附属書 F と解説の素案は 6 月中に出来る。（事務局）
- ・英訳のチェックは、技術的観点でのレビューが重要。ネイティブチェックの実施も検討した方がよい。
- ・素案の精度を確認しておく必要がある。
- ・本年度の追補の改定スケジュールに合わせて、標準委員会に付議する予定としているが、初めての作業でもあり、関係個所との調整もあることから、柔軟に対応していく。（スケジュールに拘らず、確実に進める。）
- ・用語集のような定義を用意しておく方がよい。（実施基準の用語の定義を各委員に配布済み）
- ・レビュー分担者の専門分野を考慮して、附属書 B と附属書 C.7 の分担者を入れ替える。（皆川委員と成瀬委員を入れ替える。）

(5) 経年劣化メカニズムまとめ表の管理方法 (P14SC-14-5)

西山委員より、P14SC-14-4-5 に基づいて、運転初期からの経年劣化管理からの知見反映の方法及び時期について説明がされた。主なコメントは以下のとおり。

- ・今年改定提案されるのは、モータ内の電磁ブレーキライニングが接着材の劣化により剥がれた事象など数件の予定であり、今回の改定に間に合うように提案する。
- ・原子力学会の審議では、提案される結果と共に、改定提案の検討プロセス（事象抽出の根拠や網羅性）の確認が重要。

(6) 経年劣化メカニズムまとめ表の改定 (P14SC-14-6-1～P14SC-14-6-3)

文能幹事より、P14SC-14-6-1 に基づいて、前回と同様の作業プロセスを用いることが説明され、これにより、作業を進めることが了承された。主なコメントは以下のとおり。

- ・敦賀 1 号機の 40 年目の高経年化技術評価で、30 年目に評価していた劣化を削除している場合であっても、まとめ表からは当該事象を削除しないこととする。
- ・改定の対象プラントとまとめ表との相違点を整理したものなどがある場合、これらを利用した作業の効率化を検討してはとの提案があり、今後の 40 年プラント、数プラントで方法を検討することになった。

また、万年委員より、P14SC-14-6-2 に基づいて、まとめ表改定案の概要が説明された。主なコメントは以下のとおり。

- ・「ステンレス鋼」の記載には、「ステンレス鋳鋼」が含まれている場合と含まれていない場合があるので、定義を明確に記載する（「ステンレス鋼」に 2 つの意味があることなどを明記）など、利用者が混乱しないようにする必要がある。（他の材料の鋳造品についても同様）

さらに、文能幹事より、P14SC-14-6-3 に基づいて、まとめ表記載要領が説明され、まとめ表のドラフト作成時のルールを文書化したものであるため、確認作業に活用してもらおうと共に、委員からのコメントを募集することになった。

(7) 耐震安全性評価の充実の検討について (P14SC-14-7)

西山委員より、P14SC-14-7 に基づいて、検討のスケジュールや課題が説明され、事業者と NISA の調整などがもう少し進んだあと、規格化に取り掛かることになった。

(8) 配管減肉耐震の規格化 (P14SC-14-8)

標準委員会の宮野委員長より、P14SC-14-8 や P14SC-14-参考 2 の研究成果の規格へ

の反映は、事業者及びメーカーが行うべきとの意見があり、前項（7）耐震安全性評価の充実の検討の大枠の中で、これらの研究成果を取り入れるなどの提案を、今後実施することになった。

（9）システム安全専門部会等への状況報告（P14SC-14-9）

文能幹事より、P14SC-14-9 に基づいて、状況報告案が説明され、耐震安全性については、検討を開始したことのみ報告することになった。

（10）PLM 分科会活動スケジュール（P14SC-14-10）

スケジュールを確認した。

6. 今後のスケジュール等

次回、次々回の分科会開催を、7月16日（金）、8月20日（金）の13:30～（場所：(独)原子力安全基盤機構 本館9階9G会議室）に仮決めした。

以上